

令和2年度第1回鹿沼市総合教育会議 議事録

1 日 時

令和2年10月22日（木） 午後2時00分～午後3時05分

2 場 所

鹿沼市役所特別会議室

3 出席した委員

市 長	佐藤 信	教 育 長	中村 仁
教育長職務代理者	鈴木 泉	教 育 委 員	平野 美恵
教 育 委 員	宮田 里枝		

4 出席した事務局職員

教育次長	高橋 年和	教育総務課長	金田 毅
教育総務課	津吹 真章	教育総務課	山本 敬子
学校教育課長	駒場 秀明	学校教育課	猪瀬 武
学校教育課	水野 高宏	学校教育課	田島 佑亮

5 傍聴者

なし

6 会議の概要

(1) 開 会（進行：金田教育総務課長）

(2) 挨拶

ア 市長挨拶

令和2年度1回目の総合教育会議にお忙しい中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。また日頃から教育委員の皆様には、市政運営、また教育行政の推進ということで大変ご指導、ご協力をいただき、感謝を申し上げます。10月1日付けで新たに中村仁氏が教育長に就任されまして、そして鈴木泉職務代理、さらには倉松俊弘委員が再任され、引き続き教育行政の推進にあたっていただき、大変心強く思っているところであります。これまでの豊富な経験を生かされながら引き続いてのお力添えをよろしくお願いいたします。

今年度は何といたっても新型コロナウイルスの関係ですべての事業がほぼ中止になりました。教育委員会の関係で言いますとさつきマラソンを始めとして、有数のイベント等が中止になり、そのほか子どもに関わる色々な大会とか全て中止になるという状況が続いておりました。学校も5月末まで休校になるという異例な事態ということで、結果的に良かったのか悪かったのか分かりませんが、そのように対応せざるをえなかったということであり、家庭や子どもに対するご負担、学校の先生方のご苦勞も含めて苦慮したところで

ありましたけれども、無事乗り切り正常な形で教育が行われていることに、皆さん方の努力に、教育委員会のご指導に感謝を申し上げたいと思っています。

そのような中、ICT教育ということで当初5年で配布を予定していたのですが、急遽1年でやるということになり、それらの手配を進めているところでありますけれども、今年度中にすべて整備完了という予定であります。ものが揃うのか全国的に話題になっているところであり、若干の懸念がないわけではありませんが、収めることができるという前提のもとに進めさせていただいているところでもあります。要はものが入って終わりではなくて、それらをうまく活用しながら、いろいろな事態に備えて教育内容の充実を図っていくことで、また新たな課題も生じてくると思っておりますが、整備するからにはそれらを利用して子どもたちが逞しくこの時代を生き抜いていく力を身に着けていくことが何より求められてきますので、それらが軌道に乗るようにお力添え、ご指導賜ればと思っております。

コロナ騒ぎの中、全国的に母子手帳の届け出が10数パーセント落ちたという話題がありました。コロナの影響で少子化に拍車がかかるのではないかと懸念もしておりますが、なぜか鹿沼市の場合はさほど影響がなくて昨年並みの届けが来ているところではありますが、子どもが減っていくのは避けられない現実でありますから、少なくなっていく子どもたちをしっかりと教育し、どう育てていくかということが求められてくるわけで、環境の充実を努めてまいります。

今日は忌憚のない皆さんのご意見をお伺いさせていただくということで、開催させていただきました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

イ 教育長挨拶

本日は、今年度第1回目の総合教育会議を開催いただきまして誠にありがとうございます。只今市長からのご挨拶でご紹介に預かりましたけれども、10月1日付けで教育長に就任しました中村と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。高橋臣一前教育長から引き継ぎを受けましたところ、この総合教育会議は、制度創設以降、いじめの重大事態等、緊急の総合教育会議を招集することなく今日に至っているとお聞きしております。これもひとえに、委員皆様方の日頃のご尽力の賜物でありまして、改めて敬意と感謝を申し上げたいと思います。今年度は、コロナウイルス影響下ということで、新しい生活スタイル「3密」を防ぎながら、今後も市教委におきましては学校、家庭そして地域とともに歩みながら人を育む教育環境の充実に努めてまいりたいと思っております。

就任に際しまして、教育委員会事務局の中で4つほど話させていただきました。掻い摘んで申し上げます。1点目は、何のためにするのかという事業遂行の目的・問題意識を大事にしたいということでもあります。2点目は、最前線で教育を担っている第一線の現場を重視してまいりたいということでもあります。3点目は、お互い信頼関係を大切にして、感謝の心を持って高めあって支えあっていく雰囲気を作りたいと思っております。4点目としては、教育

に携わるものとして学び続けるという姿勢を大切にしていきたいと思います。というところでもあります。

本日の会議のテーマであります「ICTを活用した学びの推進」につきましては、現教育ビジョンに位置付けましたリーディングプロジェクトの3本柱の一つ、「確かな学力の育成」の中の重要な部分であります。この推進につきましては、市長には大きな予算措置を講じていただきまして、本当にありがとうございます。

教育行政を取り巻く課題は、多種多様でありまして、内容も変化しつつあります。現にコロナの影響で大きな変化も出てきたところでもあります。教育行政の推進におきましては、教育大綱、次期総合計画との整合性を図りながら教育ビジョンの策定を進めてまいりたいと思っております。今後も市長部局との連携を維持強化いたしまして、総合教育会議で策定した本市の「教育大綱」の基本理念であります『学びから未来をひらくひとづくり』に基づいた事業を実施してまいります。皆様には、これまでどおりのご支援をお願い申し上げまして、挨拶といたします。よろしくお願いいたします。

(3) 報 告（駒場学校教育課長）

ICTを活用した学びの推進について

確かな学力の育成のうち、ICTを活用した学びの推進、教育のICT環境整備についてご説明いたします。

まずはじめに、ICTを活用した学びを推進する背景についてご説明いたします。政府より「Society5.0」が提唱されましたが、これまでの社会は、古くは自然と共生しながら狩猟や採集をしてきた Society1.0 の狩猟社会に始まり、農耕社会、工業社会、情報社会と発展してきました。そして、私たちが迎えるこれからの社会が、仮想空間と現実空間を連携し、経済発展と社会的課題の解決を両立する「Society5.0」です。ここで、Society5.0 の社会がどのようなものなのか、政府広報が公開している動画がありますので、ご覧ください。この動画で描かれたものの中にはすでに実現されているものもあり、遠い未来の世界の話ではなくなっています。「AIの進化により、ビッグデータが活用される社会」、「IoTですべてのモノがつながり新たな価値が生み出される社会」それが Society5.0 です。

新しい価値やサービスが創出され、人々に豊かさをもたらす新たな社会である Society5.0 が到来することによって、子どもたちが大人になる頃には、暮らしや働き方も現在とは大きく変わってきます。そんな社会に生きる子どもたちには、「予測できない変化を前向きに受け止め、主体的に向き合い、関わり合い、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となるための力」を身に付けさせることが求められてきます。

そこで、今回の学習指導要領の改訂では、「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置付け育成を図ること、プログラミング教育を充実させることが示されました。それらを実施していくにあたり、学校教育におけるICT

T環境の整備が必要となります。「教育のICT環境の整備」では、令和元年12月に、国の「GIGAスクール構想」という、学習者用PCとネットワーク環境整備計画が打ち出されました。この『GIGA』とは、グローバル&イノベーション ゲートウェイフォーオールの略で、全員が国際舞台と革新的創造の扉を開けることのできる学校にしていこうという意味です。GIGAスクール構想の実現に伴うICT教育を推進するためには、ハード面、ソフト面、指導体制の三位一体の改革が重要です。ハード面は、一人一台のPCの配備や通信ネットワークの整備などインフラの整備の改革です。ソフト面は、教育現場でソフトウェアやアプリケーション（デジタル教材・教科書）をどんどん活用していく改革です。三つ目の指導体制は、人材育成を行うことが最も重要であり、スキルアップのための教員研修や教員をサポートしていくためのICT支援員の配置もあわせて改革していきます。

まずハード面の整備についてですが、今年4月に「新型コロナウイルス感染症」の経済対策において、「子どもたちの学びの保障」をするという方針により、令和2年度中の整備に前倒しすると国は閣議決定しました。そのため、今年度、一人一台端末の整備や高速大容量通信ネットワークの整備が一気に加速することになりました。現在、進めているハード面の整備としては、令和2年度中に、各学校における高速通信ネットワーク環境の整備及びタブレット端末等情報機器の導入完了を予定しており、令和3年4月からは一斉に活用がスタートできるよう事業を進めています。また、校務支援システムについては、労働環境の改善及び教職員の業務の多忙化に対応するため業務効率化を目的に導入するものであり、学校における働き方改革の中で、教職員の時間外勤務の削減など負担軽減につなげていきたいと考えています。現在、進めている「GIGAスクール構想」の実現により各学校のICT環境の整備が行われ、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、個別最適化された学びの実現を目的とし、一斉学習や個別学習、協働学習など様々な学習場面での活用が見込まれます。

次に、ソフト面の整備ですが、授業においてタブレットを活用する際、タブレット標準のカメラやブラウザ等の機能だけではなく、各種ソフトウェアを使うことで、活用の幅を広げることができます。その一つとして、授業支援ソフトウェアである「オクリンク」を導入することで、一人一人の考えを发表或したり、協働学習での活用が図れたり、授業において効果的にICTを活用することができるようになります。また、プログラミングツールである「LEGO WeDo」「ME SH」の各校への配備を進めております。これらプログラミングツールの配備により、理科などの教科や総合的な学習の時間等におけるプログラミング教育に活用することができるようになります。

最後に、指導体制についてですが、ハード面、ソフト面の整備とともに、教員の指導力向上が求められてきます。昨年度、全小学校にタブレットを導入した際には全小学校においてタブレットの導入研修を実施し、タブレットの基本操作等について学ぶ機会を設定しております。今年度は、来年度からの一人一台環境に向けて、小中学校教員を対象とした「タブレット活用研修」や「オク

リンク研修」を計4回実施しており、来年度以降も計画的にタブレットの活用について学ぶことができる研修を設定していく予定です。また、先生方の活用を支援するためのICT支援員の配置も予定しております。ICT機器のトラブル対応のみならず、タブレットを用いた授業支援、ICT活用の提案等、幅広く先生方のサポートができる体制を、ICT支援員を配置することで構築していきたいと考えております。

今年、各学校のWi-Fi環境整備に約5億8千万円、一人一台のタブレット導入に約4億9千万円、大型テレビ導入に約7千万円、ほかにも支援システムの整備、ICT支援員の配置など多くの事業を進めております。コロナ禍の中で、多忙な時期もありましたが、着実に導入・整備に向け業務遂行しております。

今後の展望としては、家庭学習でのタブレットの活用についても検討を進めていく必要があると考えております。ICTを活用し個別最適化された学びの実現を推進していくためには、タブレットを自宅に持ち帰り、家庭学習で活用することも有効となってくると考えています。タブレットを家庭でも活用するためには、オンラインドリル教材の導入やクラウドの活用などが必要となってくるため、今後さらに検討を進めていきたいと考えております。また、先日、平井デジタル改革担当相が記者会見で「一人一台の端末が配備されることを前提に、教科書は原則デジタル教科書にすべきではないか」などとして、教科書制度の見直しを提起したことを明らかにしたように、今後、学習者用のデジタル教科書の導入も視野に入れて検討していく必要があると考えております。

以上で説明を終わります。

鈴木委員 このたびは市長のご英断で約12億円以上の費用をICT整備に充てていただき、誠にありがとうございます。一同感謝しています。

これから課題はたくさん出てくると思います。後は横の情報の連絡ですね。トラブルの共有など学校間で情報を共有するシステムを構築することが必要ではないかと。また、タブレットを持ち帰ったときなど保護者に対する手引きも必要かと思えます。

(4) 意見交換

プログラミング教育およびオンライン学習などの説明（水野指導主事）

タブレットを使っのプログラミング教育の体験（田島主事）

平野委員 プログラミング教育は実際楽しいし、いいと思うが、コンピューター言語を覚えるだけでなく、成長したときにどう生かしていくかが求められると思います。

事務局 プログラミング教育は、アプリやシステムの使い方という知識技能を身に着けるといよりも、この事項とあの事項をどう使って組み立てれば自分の望むようになるのかという論理的な思考を学び資質を伸ばすことを意図しています。将来的にコンピューター関係以外の様々な課題に対しても、解決に向けて現状を分析し、どう対策を立てていけばいいかを論理的に考えることができるようになることを目指すという意味合いの方が大きいと考えております。

I C T教育については、様々な意見や感想を伺いながら、スピード感を持って推進していくことを確認した。

(5) 閉 会